

国際理解科目

——「異文化理解」(2年生) 授業報告——

木村 政子

海士部 伸子(文責)

1. はじめに

今年度は、日本人生徒11名(内1名、9月からフランスへ留学)、留学生2名(スイス、イタリア)で週1時間の授業を行った。この授業では、さまざま得られる異文化情報の中から自分が興味関心を持ったことを実際に体験してみる、そこで何を感じ、考えたかを自分の言葉でまとめるということを重要視してきた。本やテレビ、特にインターネットの普及により世界の情報が簡単に得られる昨今、見聞きした情報だけで物事を理解したつもりになっている生徒も多い。そのことを危惧し、この授業では生徒に実体験の重要性に気づかせることを目的とし、授業を展開した。

2. 授業内容

| | 回 | 月 日 | 授 業 内 容 |
|--------|-----|----------------------------------|---|
| 学 期 | 1 | 4月9日 | 授業内容概略説明、生徒自己紹介、留学生へのインタビュー(英語+日本語) |
| | 2 | 16日 | 留学生へのインタビュー(英語+日本語)、インタビューまとめ、留学生による日本人生徒への質問 |
| | 3 | 23日 | インタビューまとめ、留学生による日本人生徒への質問、School班発表 |
| | 4 | 30日 | 各自のメールボックス開設(農場実習のため1クラス5名欠席) |
| | 5 | 5月7日 | Daily life班発表、留学生による日本人生徒への質問 |
| | 6 | 14日 | 留学生による日本人生徒への質問、インタビューのまとめレポート提出に関するプリント配布+説明 |
| | 7 | 28日 | 6月4日(食文化)の授業に向けての準備(班分け、レシピ作成(英語+日本語)) |
| | 8 | 6月4日 | 食文化(スイス、イタリア、日本)に触れる~その1~(調理実習) |
| | 9 | 11日 | 国際協力事業団、青年海外協力隊についての説明 |
| | 10 | 18日 | 青年海外協力隊OGのお話「マラウイで見て・聞いて・味わって・感じた<えっ、変!何これ違う?>」 |
| | 11 | 7月9日 | 夏休みのレポートについての説明、夏休みのレポート計画書作成 |
| | 12 | 16日 | 夏休みのレポートについての調べ学習開始(生徒によっては計画書の練り直し、メールボックスの開設) |
| | 夏休み | 課題:「えっ、変!何これ違う???と思ったことを実際に体験して」 | |

| | | | |
|-------------|-------|--|---|
| 2 学 期 | 13 | 9月3日 | 夏休みのレポートについてブリーフスピーチ |
| | 14 | 10日 | 夏休みの異文化体験をみんなでやってみよう！（食文化（インド、トルコ）に触れる～その2～） |
| | 15 | 17日 | 現地で活躍中の青年海外協力隊員とのメール交換について、ブータン王国の高校生との文通について |
| | 16 | 10月8日 | 協力隊員の任国（中国・ジャマイカ・ガテマラ・ドミニカ共和国）について調べる、初メールを送る |
| | 17 | 15日 | ブータン王国を知ろう！（ビデオ＜地球家族＞約20分） |
| | 18 | 29日 | 隊員からのメールをチェック、最終レポートのテーマ決定 |
| | 19 | 11月5日 | 青年海外協力隊OG（本校教官）によるブータン王国のお話 |
| | 20 | 12日 | ブータンの高校生から届いた手紙を受け取り、ブータン人へ行った10の質問項目についてまとめる |
| | 21 | 19日 | 日本の高校生（受講生）が行った10の質問項目についてまとめる |
| | 22 | 26日 | イタリアの高校生から届いた手紙を受け取り、10の質問項目についてまとめ、3カ国の違いを比較 |
| 23 | 12月3日 | 留学生お別れパーティー（食文化（日本）に触れる～その3～） | |
| 冬休み | | 課題：「協力隊員とのメール交換で得られたもの+任国のついて各自のテーマに基づいて調べたこと」 | |
| 3 学 期 | 24 | 1月14日 | 冬休みレポートの発表（ドミニカ共和国） |
| | 25 | 21日 | 冬休みレポートの発表（ドミニカ共和国） |
| | 26 | 28日 | 冬休みレポートの発表（ジャマイカ） |
| | 27 | 2月4日 | 冬休みレポートの発表（ジャマイカ） |
| | 28 | 18日 | 冬休みレポートの発表（中華人民共和国） |

3. 3カ国（日本・ブータン王国・イタリア）の高校生の比較

昨年度から交流のあるブータン王国の高校生に加え、今年度は留学生を通じてイタリアの高校生とも交流をすることになった。2学期中旬からの交流となったため、手紙やメール（イタリアに限る）のやり取りはなかなかスムーズにはいかなかったが、3カ国の高校生に共通に10の質問を行うアンケートをとることができたので、そのまとめと生徒の感想を紹介する（資料1、2）。

| | 日本 | ブータン | イタリア |
|--------------------|--|---|--|
| 1. Family | 4人-⑥ 5人-④ 3人-② | 4人-④ 5人-⑤ 6人-② 9人-② 11人 | 4人-③ 3人-② |
| 2. Subject | 英語-⑥ 体育-④ 国語-③ 音楽-② 世界史 生物 ラテン語 古文 | 理科-⑦ 英語-⑥ 数学-④ ソソカ語-④ 地理-② 歴史-② | 英語-⑥ フランス語④ 歴史-③ ドイツ語-② 文学-② 芸術 数学 ドラマ 回答なし |
| 3. Hobby | 音楽鑑賞-④ 映画-④ 読書-④ テニス-③ バスケット-② ギター-② 料理-② お菓子作り まんが ジョギング 歌 習字 | 読書-⑥ 音楽鑑賞-④ TV-⑤ バスケット-③ ゲーム-③ お喋り-② ダンス-② 文通-② パトカー-③ 歌 勉強 | 音楽鑑賞-⑥ ダンス-⑤ 読書-⑥ 映画-③ 歌-② ジョギング-② 友人と外出② ディスコ-② 観戦② 料理 まんが 絵画 旅行 TV フットボール ピアノ インターネット |
| 4. Future | 未定-② 外交官 医者 アナウンサー 国際的な仕事 他国の人々と関わりたい 外国語の勉強 素敵なおばあちゃん 趣味ややりたいことをしている人 笑って楽しく過ごす | 医者-⑤ エンジニア-② ビジネスパーソン-② 立派な市民② 偉い人 教師 スポーツマン | ジャーナリスト 考古学者 精神科医 公証人 歌手 メディアアーティスト 言語を使った仕事 東洋の言語を学ぶ 大学で日本語を学ぶ 大学で語学を学ぶ 海外にいる ロスに住む 大家族を多くの友人 結婚し3人の母親 |
| 5. Important thing | 家族・友達-⑤ 家族-⑥ 友達-④ 食べること 愛 決められない | 勉強-⑤ 家族-④ 友達-③ 大望-② 目標達成 真実 食べ物 | 家族・友達-⑥ 恋人-② 愛-② 友情 音楽 芸術 健康 たくさんある |
| 6. Happy | 友人・家族といる-⑥ 好きな人という 甘い物食べている 舞台上立っている 海外旅行 音楽鑑賞 好きなことをする 部活中 デパートに入る 他人が嬉しい | 友人・家族といる-④ 成功-③ 友人という-② 家族という-② シェークスピアを読む 元氣付ける 数学の問題が解けた 手助けする | 友人という-⑥ 恋人という-② 互いに愛し合う 新しい人に会う やりたい事ができた 誰もいららさせない 家族・友人という 家族と離れ友人という 人々が幸せ 平和の中で暮らす 権利のために闘う 音楽鑑賞 |
| 7. Sad | 仲間はずれ-② 試合で負けた-② 約束を破られた-② 願いが叶わない だれかが泣いている お腹がすいた 友人・家族と口論 忘れ物をした 悲しいニュースを聞く 友人に誤解された イタリアの家族を考えた | 両親と離れていた-③ 成功できない-③ 寂しい-③ 誤解された 悲しむ人に会った しかられた 数学の問題が解けない 地面に落ちた 悲しいニュースを聞いた 失恋 1コマ授業に出席できなかった | 理解されない-③ 暴力的-② だれかが怒んでいる-② 口論-② 人々が元気がない 一人ぼっち 成績が悪い 死を考える 会話が成立しない 悲しいニュースを聞く |
| 8. Irritated | 電車が来ない-③ やりたい事が出来ない-② 満員電車 太った 他人の意見を聞かない人がいる 意見を聞いてもらえない 数学の疑問を解かなければならない 友人が約束を守らない | 陸口を言われる-⑤ 拒否された からかわれた お世辞を言われる うるさい場所 達成できない 頭が働かない 失敗した やりたくないことをやる バカなものをみた コミュニケーション | 話を聞いてもらえない-③ 他人の話を聞かない人がいる-② 口論-② 信じてもらえない 命令される うそをつかれる したい事ができない 欲しい物が手に入らない |
| 9. Peaceful | 家族や友人が笑っている-⑥ 友人という 海外で歓迎された 寝る お風呂に入る 夕焼けをみたとき どうしてかわからない 芝生に寝転んで読書・音楽鑑賞 | 家族という-③ 静かという 一人である テストが終了 テストに合格 宿題終了 読書 自然に囲まれている 寝ている 悩みがない 平和を感じない | 友人と外出-② 愛犬とソファにいる お風呂に入る 周りの人が元氣 音楽を聴いて寝る 歌を歌う 絵を描く 夕食後 自分の意見が言える 友人と楽しんでいる 守られていると感じる 平和を信じて聞いている |
| 10. Future world | 平和-④ 嬉しくなるチャンスがある② 親しくなってお互いを尊重し合える-② 争いが無い 犯罪がない だれもが自由 たくさん歌を歌う 国境を越えて助け合う 行きたい所に行ける 国際的にお互い理解 | 戦争がない-③ 繁栄-⑥ 大望 愛し合う 独立 | 戦争と誤解がない平和-⑦ 公平-② 危険が少ない お互いを尊敬し合う 愛 寛大 幸福 より良い世界 |

を支配しているところだけを見ると、かつて列強の仲間入りを果たそうという野望のもと動いていた日本と似た雰囲気を感じた。

一方、イタリアの人の考えは面白いかんじのが多くて、将来の夢もメイクアップアーティストや歌手など自分の才能を磨いて職業にしたいと考えている人が多いうた。大層なモチベーションに唯一音楽・芸術が入っているのも、自己表現が大切だと考えている裏返しだと思ふ。また、好きな教科や将来の夢に 外国語の項目が多いのも目立った。これはブータンとは大きく違っていた。そこは先進国と発展途上国の差というのが一番大きな原因だと思ふが、ブータンの方はやはり国外のことまで眺める余裕がないんじゃないかと思ふ。

そして私たちが日本の高校生はやはり普通だなと思える結果だった。電車が遅れていたり混雑していることについて立ち、みんなが笑顔だと平和だなぁと思ふのはよくよくわかる。日本という社会の中で毎日過ごしているのだから当たり前だと思ふが……。しかしよく見ると個性がとても強い。国際的な仕事をしたという人もいれば私なんがは素敵なおばあちゃんになりたいと思ふている。

国を比較してみても、個性では片付けられない国民色みみたな特徴が少しずつはあるが見つけられた。これからどんどん大人になるうちにこの特徴が強くなるか弱くなるかはわからないが、各国の将来に影響すると思ふので、今後の国際情勢や各国の文化などに注目したいと思ふ。

<ブータン>
 ・勉強を重要視している。・家族が多い。
 ・平和・繁栄を願う人が多い。

・将来は人の役に立つような職業や立派な人になりたいという人が多い。
 ・アライドを偏付けられるような行動に敏感。
 <イタリア>
 ・多趣味な人が多い。・意外と家族が少ない。
 ・将来の夢も多種多様。
 ・元気がないとか他人が悲しんでいるなど 覇気がないのをよく目撃することだと考えている。
 ・愛情重視。

<日本>
 ・イタリアと似ている点が多い。(家族・趣味・幸せなときなど)
 ・幸せやイライラを身近なことに感じている。

ブータンの人たちは 私たちと年代なのに(?) 勉強や大望などを一番大切に考えて、将来は人々のために尽くすような仕事に就きたいと思っているのはすごいと思ふ。私たちが自分で自分のやりたいことを見つけて仕事にしようと思っているのに、いかに国に奉仕できるかを考えて日々勉強しているのかと思ふと愛国精神というか 自分自身の個性を生かそうとしないうでよく頑張れるなと思ふ。この精神は自ずから発芽するの親や学校の先生などに小さい頃から教え込まれてきたのにはよくわかるが、明治～戦後の日本人の思想に似ていると思ふ。まあ似ているといっても昔の日本のよりは厳格なものではないけれど、成功することや自分のメンツを大事にしたり、大望が思想

3ヶ国の比較

ブラジルやイタリアに比べて、私には日本人の考えが本当に甘いという
ことをとても強く感じる。ブラジルやイタリアは社会的なことか
個人に影響^{影響}を受けて、考えていることが深刻なことが多く、思う。
例を出すと、ブラジルでの「立派な市民になりたい」、「平和を感じたい」
「繁栄」、「大望」などや、イタリアの「権利のために闘う」、「死を考える」
「平和を信じて信じている」などのことは、日本ではほとんどあり得ない
ような考えだと思う。そこから、個人個人が世界のことについて
考えていたほうが日本は、まだ「まだ」異文化理解、というものは
程遠いのではないかと、少し悲しくなった。

また、日本やイタリアに比べて、ブラジルの人たちが勉強について
考えていることがたくさんある。それは、日本やイタリアは進んで、言語もか
豊かには生活をしていて、娯楽のようはものがたくさん出回っているため、
勉強以外にもやりたいたいことや楽しめることをみんな知っているの、
勉強を楽しむとは思えないというところなのかもしれない。ブラジルでは
家のイイ事をしていくために学校に行けない人もいるところから、
勉強をやる必要があることではなくて、勉強を楽しむと考
えている人が多いのではないかと、思う。

日本もイタリアもブラジルもそれぞれいろいろな意味で異なっている国
だけれども、友達・家族がいる時は幸せに感じ、戦争がなくて
平和な世界を望んでいる。同じように考えていることが少いからか
あったことをとてもうれしく思う。同じように考えていることで世界が
よくなる感じがする。

4. マーシャル諸島共和国、ツバルの高校生との交流

12月に外務省主催の「平成14年度日本・太平洋島嶼国若人交流計画」招聘事業に参加する機会に恵ま
れた。夕食を含む交流会ということで、参加できない生徒も数名いたが、マーシャル諸島共和国、ツバ
ルの高校生たちと直にふれあい、歌や踊り、民族衣装などでお互いの文化を紹介しあうことができた時
間は、ただ楽しいだけでなく、日本の援助について考えるきっかけになったり、思いきって行動するこ
との大切さを実感できたりした貴重な体験となったようだ(資料3)。

一番大きかったのは、外語者のツバルと2-ツバルとの交流会で、ツバルの方でも2-ツバルの方でも日本の援助には本当に感謝してくれていて、何度もお礼を言っていました。ツバルや2-ツバルといったあまり知名度の高くない地域に交わって日本はしっかりと助けをしてくれているという事に驚き、嬉しいことだと思われました。アメリカほど大国と言われている国々からは「日本はお金だけ出す」という印象をもたれ、実際に私もそう感じていて、他国への援助にあまり良い気はしていませんでした。けれどその交流会を通じて、日本の援助は喜ばれられていてくれるのだと月々感じることができました。(ただ多くの日本人がツバルや2-ツバルなどの国々への支援のことを知らないと思うので、それ以外残念である。これから何をやっていくか良いかと思っております)

他にも「日本人はよくお礼を言う」という話も日本の良い文化のよさを気がしました。確かに、自分のお礼の量みかたはよくあるとも言えるかもしれませんが、私はあくまで素直にお礼を言うことは、必要なことで大切なことだと思っております。言わなくても言われた方も快い気持ちに持たせられ、それがこの文化を大切にしていけるべきだと思っております。

そしてそのためには「交流」をもつことも大事だと思っております。ジュニア大使の方々と参加した、ツバルとの交流会で、異文化理解の1つ方を99%学べました。

異文化理解の1つ方としては...

- ① 音楽と踊り
- ② 言葉
- ③ 衣装
- ④ 食事
- ⑤ 風俗、習慣
- ⑥ スポーツ、遊び

「よ」を通してお互いの文化を紹介し合い、実践してみることが大切である。最初は私も交流会が「身心おろか」な感じがして、思いきって行ってみると、案外難しくもなく、むしろ楽しかった。

5. 一年間の授業を終えて

今年度の授業は昨年度と比較して非常に慌しく、盛沢山の授業内容をとりあえずザッと駆け抜けたといった感がある。昨年度と今年度の授業の大きな違いは2つある。1つは授業時間である。昨年度は土曜日(隔週)2時間続きであったが、今年度は週1時間となり、毎回の授業が非常に短かったため、まとめや生徒が理解を深める時間を十分に確保できなかった。そのため授業中に生徒個人が感じたことや疑問に思ったことを、クラス全体の共通の話題にしてディスカッションするような時間がほとんど取

れなかった。もう1つの違いは、授業を受ける生徒たちのレディネスである。昨年度の生徒たちは、そのほとんどが1年次に異文化理解Ⅰの授業を週2時間取っており、基礎的な知識の積み上げがあったため、次から次へと与えられる新しい課題に対しても大変主体的、意欲的に取り組むことができた。しかし、今年度は生徒全員が初めて取る授業であったため、まず授業のスタイルを理解するのに時間がかかり、また昨年度と同じ課題を与えた場合の飲み込みや反応にも時間がかかった。同じ2年生という学年であっても、1年間の積み上げがあるかないかはその後の授業の展開に大きな違いを生むということを変えて感じた1年であった。

生徒たちの最終レポート〈異文化理解の授業で学んだこと〉(資料4)を読むと、とりあえずなぜこの授業で体験することが重要といわれるのか理解できた生徒が多く確認でき、ほっと胸をなでおろしているところであるが、やはり反省点もあり、来年度は生徒のレベルに合わせて課題を与えること、生徒の理解を深められるような時間を確保することを課題に授業に取り組んでいきたい。

資料4

No. _____
Date _____

1年間の異文化理解の授業から学んだこと

1年間異文化理解の授業を受講してわかったことは①まずはとにかく“知る”という事。全く無知であるという事は、それに対して勝手な先入観を持ち自分の価値観だけでそのモノを判断してしまふ。そしてそのモノが自分と慣れのない物だったりすると、悪いイメージを持つ傾向があるような気がする。なので、まずは“知る”ことが大切だと思ふ。ただ、“知る”という事は、正しい知識を得ること、そのためには自分の立場からだけでなく、あらゆる角度からそれをとられる必要があると思ふ。そして正しい知識を得て、何かしら疑問や驚きを感じたら、②それを実際にやってみること。これが最初に夏休みの課題に出た時には、何をしようかというのかわからなくてとても困ったけれど、言葉室で手でカレーを食べた時に、このことの意味がわかったような気がした。“手で食べる”ということを知って、汚ないと感じたけれど、その裏には宗教の問題などが関係していることがわかり、とりあえずそういう文化を認めたりもしていた。それで異文化を理解した!と思つていければ、実際に食べてみると頭でわかった(つもりになって)ということが実際に体験としてより深く入ってきて、この時に改めて異文化を理解できたという気になった。そしてこの体験してみても異文化を理解できるとわかった時、異文化理解で大切なのは、“慣れ”ではないかと思つた。どんな文化であってもそれなりの意味を持っていて、良いか悪いとかいうものはないし、最初に理解できないと感じても、それを体験し続ければ自然と習慣として身につくと思ふ。身につくという事は、それを受け入れたということ、それが慣れ無意識であっても、異文化を理解といえると思ふ。異文化理解=慣れというふうな気がする。だから、実際に体験すること、しかも1回だけでなくそれが習慣化する位(何度も体験すること)がとても重要なんだとわかった。そして、この1年間、欧米諸国以外の、今まであまり慣れがなかった国にたくさん触れることができたのも私にとってもいい経験になった。海外文化というだけでも欧米文化が先行しがちで、どちらかというとあこがれの国で見ることも多かった。しかし、発展途上国から見れば日本もあこがれの国であるというのを聞いて、そういう誇るべき国にいるにも関わらず、自分の国に

ついてあまりに無関係であったことに気がついた。海外のことを学ぶ前に、まずは自分の国について知ることもとても重要だと思った。なぜなら、単純に自分の国のこともわからないのに他の国のことはわからないだろうということ、異文化理解をする時、相手のことを知るだけだと、同時に自分のことを知らず知らずのうちに、より楽しく、新しい世界が広がるだろうと思うからだ。そのために、欧米文化にあこがれを持ち、びびりないで、日本の文化（言語や生活習慣）を正しく理解し、誇りを持って海外に広めていければいいなと思う。私たちが欧米文化に強い感性や興味を持つ、いるのと同じように、日本に対して同じような思いを抱いている人がたくさんいるんだということを知って、日本について考えることが多かった。

また、「異文化理解」というのはただ単に国家間の問題ではなく、人と人の関係の中でいつでも当てはまることだと思った。学校など、毎日生活している狭い範囲の場所であっても、そこで出会う人との間に、必ず自分とは違う価値観や考えがあって、そういう人たちと集団生活をするとこういうことは、相手を理解することが重要だと思う。そういう意味で、「異文化理解」というのはあらゆる状況において共通していえることではないかと思った。この1年間で、「異文化理解」の大切さをより深く感じるようになった。

授業の中で特に印象的だったのは、青年海外協力隊の方と、海工部先生から、協力隊についてのお話を聞いたこと。以前は、外国に行けるし、発展途上国の人たちの役に立てるし、軽い気持ちで私も活動に参加してみたいと思った。でも、現地での活動の姿を知り、「援助」というこの意味を考えて、思っていたような単純なことではないんだとわかった。現在行われている国としての資金の援助も、本当に有効活用されているのと同じことも疑問に感じるようになり、これからの真の国際協力は、もっとも異文化間の人々とのつながりが大切なのではないかと思った。それにはやはりまずは自分の異文化理解から始め、相手にも理解してもらい、そしてお互いに信頼関係を築くことが必要だと思った。異文化に触れるということ、

ツバルとマニラとの文化交流会に参加したこともとてもよい経験になった。

これをきっかけに、今まで知らなかった国に興味を持って、まだまだわすれがもれないけれど、「知る」ことができた。せがのこのチャンスが無駄にしないために、これから先、積極的にツバルやマニラと何らかの関係をもち続けたいと思う。実際に行くと、現地の人と触れ合ったり、現地の文化にドップリ漬って理解できたら、ぜひもうしたいけれど、身近な人にこの国について私が得た知識を伝え、より多くの人に知ってもらい、興味関心を持ってもらうことも、私にできることではないかと思う。少しづつだけれど、人と人との交流の場が増えていけば、よりよい援助ができるのではないだろうか？

今後のさらなる異文化理解に向けて思うことは、とにかく体験することが必要だということ。そのために、現地に行くと、異文化の中で生活する機会をより多く持つようにしたい。ミラノやフェデリカを見ていて、最初は自分と異文化のものを受け入れるのは容易ではなさそうだったけれど、その異文化の中でも何とかや、いかなくちやいけないう状況にあって、だんだんと慣れていって、す、かり日本の文化を理解していた。2人を見ていて感じたことは、自分の中にある先入観や当り前とならぬ感覚を一度捨て、異文化に溶けること、より、す、かり、す、かりと、それを受け入れられるのではないかと。そして、とにかく、まずやってみよう。頭でいろいろ考えてしまえば、間違えた先入観をどんどん大きくしていく。いざやってみれば、今までの考え方がバカみたいに見えることもある。これが私から何かしら「異文化」に触れる時には、全てのイメージを忘れて、無の状態からスタートさせようと思う。そして、どんな文化にも、良い、悪いの判断はできないということを考えて、もし悪いと感じるような面が見えたら、別の角度から見ると、良いと思える部分を見つかる場所をしようと思う。そして、実は毎日異文化体験の連続だと考えれば、自分の価値観だけ（モノ）を判断したり、イメージで勝手な思い込みをしない限り、あらゆるモノを積極的に体験し、より多くの新しい発見をしていきたい。

まずはミラノフェデリカの所へ遊びに行く旅をしたい！！